

災害時の通電火災を防ぐため

感震ブレーカーが有効です

阪神淡路大震災や東日本大震災の出火原因で、判明しているうち**6割が電気に起因する火災**となっています。電気火災から大切な家族や財産を守るために、裏面の特徴をご覧ください、感震ブレーカーの設置をご検討ください。

裏面の感震ブレーカーの特徴を参考に、各家庭のライフスタイルに合った感震ブレーカーの設置を検討しよう。



感震ブレーカーとは・・・

感震ブレーカーはあらかじめ設定された震度に達すると、自動でブレーカーを落としてくれる機器のことを言います。感震ブレーカーは大きく分けると分電盤タイプ、コンセントタイプ、簡易タイプの3種類があります。



通電火災とは・・・

通電火災とは、在宅中に大きな揺れが発生し、直後に停電が発生したことから、通電中の電熱器具の転倒や可燃物の落下・接触、配線の損傷状況等が確認できない場合、または、電源を遮断する余裕がなく避難した後、不在時に停電が復旧し出火したが、不在のため初期消火ができずに発生する火災をいいます。

通電火災 イメージ

①地震発生(停電)

- ・ 停電発生
- ・ 家具転倒し、「電気コード」が損傷



②避難中(通電)

- ・ 停電した状態から通電、通電の瞬間、コードがショート




③火災発生

- ・ 散乱した室内で、近くの燃えやすいものに着火

災害時は、避難している際に電気供給が再開し、誰もいない家で火災が発生してしまう可能性があります。慌てて避難をする際に、ブレーカーを落とすなどの通電火災の予防行動が必ずとれるとは限りません。感震ブレーカーを設置することは、通電火災に対して有効な手段とされています。また、木造住宅密集地域に特に有効とされています。

感震ブレーカーの種類や特徴については表のとおりです。

	①分電盤タイプ	②コンセントタイプ	③簡易タイプ
揺れを感知してから遮断までの猶予	あり	なし	なし
屋内配線の通電を遮断	○	× (設置箇所のみ)	○
設置にかかる工事の有無	あり	なし (埋め込み型はあり)	なし
価格	約5万～8万円(内蔵) 約2万円(外付け)	約5,000～2万円	3,000～5,000円
メリット	遮断までに猶予があり、パニックになりにくい。また、遮断までの時間を設定できる。	取り付けたコンセントのみ遮断するため、遮断したい箇所を指定できる。	取り付けが比較的簡単で、オプションを追加することで、様々な分電盤に対応できる。
デメリット	他のタイプと比べて価格が高く、設置に工事を必用とする。	設置した場所のみの遮断になるため、他のタイプと比較すると火災発生の危険性は高くなる。	即時遮断をするため、懐中電灯などの明かりを確保する必要がある。

※在宅中にブレーカーが落ちた際に、周りの状況を確認せずにブレーカーを戻してしまうと、家電などから出火してしまい火事に至る可能性があります。その他に停電中にブレーカーを戻し、その後復電し火災が発生するケースも想定されます。ブレーカーを戻す前に、必ず周りで破損している家電や配線がないか確認するように気を付けてください。

大田区では通電火災の予防対策として、感震ブレーカー（簡易タイプ）のあっせんを行っています。詳しくは、大田区ホームページや「防災用品のあっせん」のパンフレットをご覧ください。